

皮膚科のトリビア

178

浅井 俊弥
Asai, Toshiya

浅井皮膚科クリニック

〒240-0013 横浜市保土ケ谷区帷子町1-14

<http://www.asai-hihuka.com>

トリビア(trivia)=3を意味するtriと+道を意味するviaでもとは三叉路の意。古代ローマで三叉路が多かったことから「どこにでもある場所」、そこから転じて「瑣末なこと」となり、今では雑学的知識、豆知識、などを意味する言葉として定着している。

本欄は、小誌編集委員の浅井先生が学会・研究会などで見聞きした「皮膚科のトリビア」をその都度まとめ、連載しています。ご意見等ございましたら、ぜひ小誌「声」欄までお寄せください。

●第118回日本皮膚科学会総会から

令和元年6月8日

自己炎症性角化症(AIKD)の概念

自己炎症性角化症(autoinflammatory keratinization disease)という概念が近年提唱された。自己炎症性発症機序、すなわち表皮角化細胞に存在する、主として自然免疫に関連する蛋白質をコードする遺伝子の変異ないし多型を病因とする炎症性角化症の総称。

これまでCARD14やIL36RN変異による汎発性膿疱性乾癬、NLPR1変異による家族性慢性苔癬様角化症、CARD14変異による毛孔性紅色粧糠疹V型が認知されている。

さらに化膿性汗腺炎や汗孔角化症でも遺伝子変異が関与するバリエーションがあり、AIKDと考えられるようになった。

一言コメント

「自己炎症といわれてもイメージがわからなかったが、自己免疫はT・B細胞などが関与する獲得性免疫の異常、それに対して自己炎症とは微生物や危機に対する自然免疫の応答ないしその制御の異常であるとのこと。少し理解できたような気がする。」

●第118回日本皮膚科学会総会から

令和元年6月9日

PLACK症候群とは

peeling skin, leukonychia, acral punctate keratoses, cheilitis, knuckle padsを特徴とする常染色体劣性遺伝性疾患。calpastatinをコードするCAST遺伝子のloss-of-function変異によって生じる。peeling skin syndromeの一種で、幼少時から下肢を中心に生じる、瘢痕を残すことなく数日で治癒する表在性の水疱、膜様の落屑が特徴。そのほか口唇や口角部の慢性的亀裂や落屑、掌蹠の点状角化、白色の爪、手のナックルパッドや足蹠の胼胝を伴う。calpastatinはcalcium-dependentのcysteine proteaseであるcalpainの特異的なinhibitorで、CASTは皮膚を含む重層扁平上皮に広く分布している。

一言コメント

「臨床的には遭遇しそうな疾患だが、実際には極めてまれ。歩行障害など下肢の筋症状を伴う例があるらしいが、臓器障害はないらしい。一応、覚えておこう。」

●第118回日本皮膚科学会総会から
令和元年6月8日

爪部のSCCは性感染症として 取り扱うべき

HPVが関与する爪部のSCC, 本邦報告136例の集計. 男女比は2.5:1で男性に多く, 平均年齢は52歳. 右I・II・III指, 左III指に多く, 爪囲型と爪下・爪甲線条型に分けられる. HPVのDNA型はHPV16が半数, 次いでHPV56とすべて粘膜ハイリスク型. 爪以外のHPV関連病変は女性の36%, 男性の20%にみられ, 性感染症として認識する必要がある.

一言コメント

「外陰部と指の接触が感染機会という結論. HPVワクチン接種も途絶えているし, 今後遭遇する機会が増えるかもしれない.」

●第118回日本皮膚科学会総会から
令和元年6月8日

抗MDA5抗体陽性皮膚筋炎は 手指掌側と耳を診る

抗MDA5陽性の皮膚筋炎は, 筋症状を欠くことと致死的な急速進行性間質性肺炎の合併が多いことが特徴である. 皮膚症状は手掌, 手指掌側の紫紅色斑(逆Gottron徴候)や皮膚潰瘍が比較的特徴的で頻度も高い. さらに耳介にも同様の紫紅色斑が9例中6例で生じていた. これと同じ病変はほかの特異抗体陽性皮膚筋炎では認められず, 特異的皮膚病変と考えられた.

一言コメント

「耳は就寝中に下になり, 圧迫を受ける部位であることから, 手の逆Gottron徴候と同様に圧迫による微小血管障害によって紫紅色斑が生じると考えられる. 重要なサインと思われる.」

●第118回日本皮膚科学会総会から
令和元年6月8日

あぶら取りフィルムでmRNAが 解析できる

皮脂は脂腺細胞自体が崩壊し全細胞成分が放出される「全分泌」の産物であり, 皮脂の中には脂質だけではなく細胞内の成分の1つとしてRNAも含有されている. さらに皮脂がRNaseの作用を阻害することにより, RNAが皮脂中で安定的に存在していた. あぶら取りフィルムで皮脂を採取しRNAを抽出, ヒトのRNA発現情報を解析できる独自の技術「RNA モニタリング」を確立した.

一言コメント

「花王が開発した技術で, 肌解析による個別的な美容の提案に用いたいとのことだが, それ以外にも応用できそうである.」

●第118回日本皮膚科学会総会から
令和元年6月8日

モガムリズマブによる光線過敏症

モガムリズマブ(mogamulizumab)はCCR4陽性の成人T細胞白血病リンパ腫, 難治性の皮膚T細胞性リンパ腫の治療に用いられるが, 8例中4例で光線過敏症を生じた. 作用波長は3例がUVB単独, 1例がUVAとUVBの両方だった.

光線過敏症の病変部は苔癬型の反応で, 浸潤細胞の多くはCD8陽性T細胞であり, Foxp3陽性の制御性T細胞(Treg)が減少していた. 抗CCR4抗体が正常の機能を有するTregを抑制したために光線過敏が生じたと考えられる.

一言コメント

「光線による皮膚障害の抑制にTregが働いているということ. 前もって光線療法を行って正常のTregを増加させると日光疹が生じない, などの機序が理解できた.」